



New! まちライブラリーの紹介

NO. 1170 (兵庫県 神戸市)

絵本で繋がる3日間@神戸KITANO ALLEY

絵本作家しょうみのりが開催する作品展「えほん」の中で、オススメする珠玉の絵本5選を配置します。更に、「絵本屋かさざぎ」店主のオススメの絵本5冊もピックアップして配置、その場で手に取ってお読み頂けます。

- Instagram: minorityshow
オーナー: しょうみのり



NO. 1173 (岐阜県 大垣市)

まちライブラリー カワノホトリ

大垣市総合福祉会館の3階、みんなの居場所「い〜ばしょ」に、まちライブラリーを作りました。用事があってもなくても福祉会館に来て欲しいなあ。そんな気持ちで作りました。

- Instagram: ogakishakyo
オーナー: 社会福祉法人 大垣市社会福祉協議会

NO. 1175 (兵庫県 神戸市)

まちライブラリー ほんといき

コープリビング甲南の一角にある、地域の団体・個人の活動拠点「甲南げんき村」。その貸ボックスでまちライブラリーを始めました。子どもからシニアまで、本を片手に一息つける場として親しんでいただきたいです。

- Instagram: hitoikilib
オーナー: 大橋成子

NO. 1176 (兵庫県 姫路市)

姫路城下町 町衆のライブラリー

民俗学や地域史を中心に、2000冊余の蔵書を持つライブラリーです。連続と続いてきた人々の暮らしを身体でも感じながら、私たちはこれからどう暮らしていくのか、思いを馳せてみるのはいかがでしょうか。

- Instagram: kokuraya.himeji
オーナー: 虫籠舎



NO. 1178 (茨城県 つくば市)

まちライブラリー@つくるひとcafe

物をつくるひと、美味しい物をつくるひと、形のないものをつくるひと、居心地のよい時間をつくるひと、心がおどる音をつくるひと。1冊の本を通して新たに始まるつながりをつくるライブラリーです。

- Instagram: hifumian
オーナー: 井出

NO. 1182 (福岡県 福岡市)

とらねこ図書館

本棚オーナーさんたちの魅力あふれる選書を読む、楽しみがたくさん詰まった図書館です。間借り先の「しかたの茶の間」は、小規模多機能ホームを運営するNPO法人が管理するコミュニティ施設です。

- Instagram: toraneko.library
オーナー: 一般社団法人とらねこ図書館

NO. 1183 (福岡県 福岡市)

とらねこ図書館

多種多様な人が楽しみながら、集い、学び、認め合える場を創る図書館。間借り先の「SEIKI SUSHI FUKUOKA」は、ニューヨークやコロンビアで飲食店を営んでいた大将が帰国してオープンした寿司居酒屋です。

- Instagram: toraneko.library
オーナー: 一般社団法人とらねこ図書館

NO. 1184 (兵庫県 尼崎市)

ムゲントシヨ

あなたが面白いと思う小説を一冊ご寄贈下さい。そして一冊お持ち帰り下さい。ここにある本は全てどこかのだれかが面白かった小説のみ並べられています。利用者が多くなればなるほど無限の小説が集まってきます。

- Instagram: happy.hyoep
オーナー: 藤井祐寿



NO. 1185 (東京都 江戸川区)

まちライブラリー@Story Time

英語絵本の読み聞かせ会をして、親子で英語絵本を開く楽しさをお伝えする活動をしてあります。英語絵本を通して育児を頑張るママ達のコミュニティ・仲間作りにもお役に立てたけると幸いです。

- Instagram: power.of.mom.bilingual
オーナー: かわむらまゆこ



NO. 1187 (愛知県 春日井市)

ツキネコノート

2025年5月、愛知県春日井市にオープンするブックカフェです。本の販売と貸し出しのほか、愛知の文化となっているモーニングや美味しいランチを楽しみ、リフレッシュしていただける場所作りを目指しております。

- Facebook: ツキネコノート
オーナー: 見須浩一

NO. 1189 (埼玉県 飯能市)

うしお文庫

愛犬うしおが館長です。図書館を作ることで、どんな変化が起こるんだろう?あまり本を読まなかった人が読むようになったり、いつもは挨拶しかなかった近所さんにバッタリ会ってお喋りしたり...むふふ、楽しみです。

- オーナー: かわしまうしお



NO. 1190 (東京都 世田谷区)

パ文庫

小さなカルチャーセンターpublico(パブリコ)にあるライブラリーです。誰かに読んでほしい本を集めて、貸出もしています。大きなテーブルでおやつを傍らに読書をお楽しみください。本の寄贈も歓迎です。

- Instagram: publico.amigo
オーナー: NPO法人子育て支援グループamigo

NO. 1192 (北海道 札幌市)

みかた文庫

我が子4人の子育てや読み聞かせ活動で増えていった絵本たちが再び皆様の役に立つことを願ってライブラリーを開きました。幼児教室を運営しながら子育てサロンでイベントや講座も行っていきます。

- オーナー: 北橋尚枝

NO. 1193 (福岡県 福岡市)

ちはやライブラリー

地域のみなさんから思いのこもったおすすめの本を、この本棚に並べ地域のみなさんに楽しんでいただきながら、人との出会い、つながりが生まれる。ここは、地域のみなさんとつくるライブラリーです。

- Facebook: GARDENS CHIHAYA
オーナー: ガーデンス千早

「個」が主役になるための「道徳観」と「顔の見える関係性」

あけましておめでとうございます。

2024年は、拙著『まちライブラリー』の研究「個」が主役になれる社会的資本づくり(みすず書房)に始まり、本のある場所の海外視察やまちライブラリーゼミなど新しい視点と活動領域に向けて動き出した年でもありました。詳細は、今回の特集をご覧ください。

さて2025年はまちライブラリーにとってどのような年になるのでしょうか?まだ詳細は詰まっていますが、2026年春以降大きなまちライブラリーが千葉県柏市北柏駅と大阪市淀川区十三の再開発事業で誕生する予定です。それぞれ地域の拠点となる規模とテーマを抱えての開設になると思います。それらを踏まえてさらに各地にまちライブラリーが広がっていくでしょうし、何よりも拙著の副題に取り上げた「個」が主役になる社会的資本づくりが進んでいくのではと楽しみにしております。

拙著で記したように近年の社会的閉塞感の裏側には、巨大化した組織や社会構造が人々の意識や行動を抑制し、「お金も組織もなければ何もできない」という虚無的な感情が広がっており、これを打破する一つの方法論としてまちライブラリーが、有用だと記しました。個々の人の自尊心や自己効力感を芽生えさせ、充実した社会が生まれることを願ったからです。

しかし最近のいくつかの選挙活動におけるSNS等の表現や行動様式をみていると「個」が主役になることの危険性にも注意する必要があると感じました。米国大統領選挙や兵庫県知事選で、SNSが情報の真贋より刺激的な言葉や表現で人々を熱狂させたのです。SNSなどの発信は、組織的な発言より個人的な発言に注目が集まります。組織的な公式見解は必ずしも人々の心に響きません。逆に個人の発言や行動は、多くの人に拡散されやすく熱狂を与えることさえあります。「個」の価値観の拡大化を「正」の方向性に向かうこともできますが、どちらかというと「負」の引力が強くなると言えます。このように「個」の価値観が社会にダイレクトに出ていくようになったSNS時代の「道徳観」の形成について改めて焦点を当てる必要があるのだとも言えます。

道徳観の歴史を遡ると、近代は宗教的価値観からの脱却が行われ、多くの哲学者や法律家、社会活動家を生み出した時代です。神の価値観に基づいた社会規範が相対的に薄れていく中で人はどうあるべきか、そもそも人とは何かを考察してきたとも言えます。拙著の中でも取り上げたアダム・スミスは『道徳感情論』(初刊1759年)で人間はどうして道徳的な感情を持つのかを理論的に説明しています。人の持つ他者へ

の「共感」と誰もが自分の行動を抑制する「公平な観察者」とスミスが定義した、誰かに見られても恥ずかしくない言動をしたいという個々人の意識が働き社会が秩序を生み出す過程を整理しています。

現代社会もある意味でこの時代と同じです。戦後の規範が曲がり角に来た今、これからの社会の土俵になるものが問われているのでしよう。その中で希望が持てる本に出会えました。『Humankind 希望の歴史(上・下)』(ルトガー・ブレグマン著、文藝春秋社、2021年)です。人はそもそも悪人であるという性悪説的な考えから、人の本質は善であるという視点で歴史、社会を見直した本です。概ね人は善であるがゆえに人類は幾度もの危機を生き残れたとしています。詳細はご一読いただくのが一番ですが、戦場に行った兵士の多くが人を殺害するどころか発砲すらできなかったという米軍の報告書や犯罪者にも善があると信頼し、自由な刑務所を作るノルウェーと、性悪説にたつて処罰する米国の再犯率の比較など多様な取材をもとにした内容は説得力に富んでいます。

私はこの本を読み、まちライブラリーの本質は性善説に依拠しているのではないかと考えています。規則ややり方にルールを決めず、自由に設置、運用できる雰囲気があり、その心地良さに惹かれる利用者。そして「性善説」ともう一つ大事な柱は「顔の見える関係性」だと思えます。ブレグマンのように社会全体を性善説で説明しきれないかもしれませんが、「顔の見える関係性」があると「性善説」は生まれやすいです。まちライブラリーを始めて以来14年になりますが、クレイマーと言われる人に出会うことはなかったです。運が良いとか人の善なる気持ちを引き出しうるのが「顔の見える関係性」だったと思えます。2025年は、この問題をさらに探求し、考察してより明るい社会を生み出す原動力を身につけて次なる視点を見つけていきたいと思えます。どうか今年も一緒に楽しいまちライブラリーを育てていきましょう!

2024年12月
まちライブラリー提唱者 磯井純亮
MSJ00657@nifty.com



まちライブラリーに関する情報はこちらから
https://machi-library.org/

まちライブラリー通信 vol. 34 / 2025 新年号
発行: 一般社団法人まちライブラリー
住所: 〒540-0037 大阪府大阪市中央区内平野町2-1-2 アイエスビル3階

まちライブラリー 2024年を振り返る

磯井さんが著書出版

全国各地で記念イベント
メディアや公共図書館界でも話題

まちライブラリー提唱者の磯井純充さんの著書『「まちライブラリー」の研究―「個」が主役になれる社会的資本づくり』(みすず書房)が2月に出版されました。蓼科親湯温泉「みすずLounge & Bar」(長野県茅野市)での出版記念の集いを皮切りに紀伊國屋書店、ジュンク堂書店、ブックスキューブリック、スタンダードブックストア、井戸書店などの書店や図書館、日本各地のまちライブラリーに伺いました。また西日本新聞(4月13日)、日本経済新聞(4月20日)、週刊東洋経済(同)、図書新聞(5月25日)の書評欄に掲載され、NHKラジオ、KBS京都ラジオに出演するなど様々なメディアに取り上げられました。「図書館雑誌9月号」「図書館界9月号」「法政大学メディア情報リテラシー研究第5巻第2号」では論文の特集にもつながるなど公共図書館界でも話題になりました。



まちライブラリーゼミ 学び合い、個人の場で実践へ

磯井さんの著書を基に、個が主役になれる社会の鍵を求め、4月から半年間、オンラインで学ぶゼミを開きました。20〜70代の16名の受講者は、本の活動で関心があるテーマや作りたいまちライブラリーの構想を練っていきました。10月に長野県で実施した合宿では、受講者のこれまでの学びと実践についてリアルの場で議論を深めることができました。



海外視察

米国、英国、韓国
個々の趣味や想いを本棚で表現

米国ではニューヨークやポートランド、英国ではロンドンやハイオンワイ、韓国はソウルと、本のある場所の海外視察を行いました。韓国のショッピングモールにあるピョルマダン図書館は、見るものを圧倒する本棚に振り切ること、世界中からの観光客を魅了する空間を作り、ハイオンワイは小さなまちの中に個性的な書店が多数集まることでまち全体を魅力的にしています。独立系書店は国を問わず増加傾向にあり、個々の趣味や想いが本棚で表現され、居心地の良い場所として利用者に受け止められています。視察を通して、日本の図書館・書店の在り方やまちライブラリーの社会的意義を考える機会となりました。

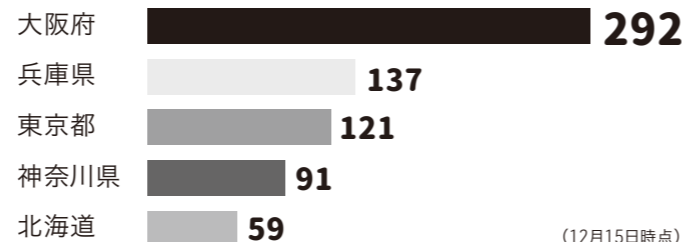


まちライブラリーの新記録

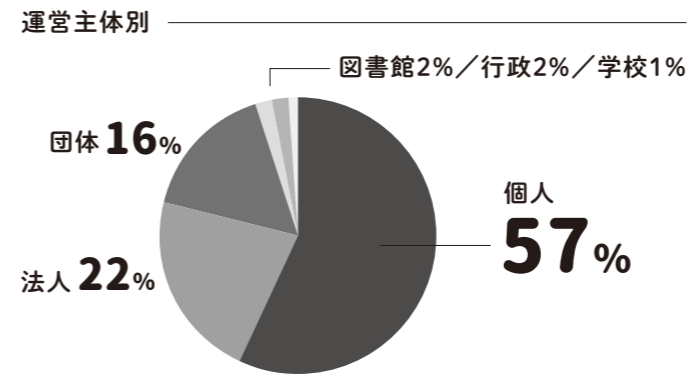
まちライブラリー登録数12月で1200カ所突破

12月でまちライブラリーの累計登録数が1200カ所を超えました。都道府県別では大阪府が最も多く、兵庫県、東京都、神奈川県、北海道の順となっています。また2024年は初めて愛媛県にまちライブラリーが1カ所誕生しました。

都道府県別登録数



運営主体別では、個人による登録が57%を占めます。開設場所はカフェなどの飲食店、オフィス、学校、塾、スーパーマーケット、福祉施設、行政施設の他、空き家活用や特定の場所を持たない移動型など多様な形で広がっています。



まちライブラリー@MUFG PARK 累計来館者10万人超

まちライブラリー@MUFG PARK(東京都西東京市)では11月、累計来館者数が10万人を突破しました。2023年6月の開館以来、多くの方に来館いただき、利用者さんからは、祝・10万人!のメッセージが多数寄せられました。「人生に豊かさをもらいました」「自分のまちにできて嬉しい」「スタッフの笑顔で元になります。ありがとう。」等々。この場所への愛着が感じられる、温かい言葉ばかりでした。



まちライブラリー@もりのみやキューズモール 11月の来館者1.4万人超

6月には、まちライブラリー@もりのみやキューズモール(大阪府中央区)の会員登録者数が1万人を突破しました。毎月の来館者は1.2〜1.3万人に上り、11月は1.4万人以上がお越しくださいました。読書や借りたい本を探しに、自習やお仕事での利用、友だちや家族との語らいにと、様々な目的で来館されています。イベントなどを通じて会員さん同士のつながりも広がり、本だけでなく人と出会うライブラリーに育っています。

まちライブラリー@南町田グランベリーパーク 蔵書1万冊超、植本祭も実施

まちライブラリー@南町田グランベリーパーク(東京都町田市)は、11月13日に開館5周年を迎えました。2019年の開館後ほどなくしてコロナ禍となり、活動がままならない時期もありましたが、徐々にイベントなどの活動を再開。現在は蔵書数も1万冊を超えました。12月には5周年を記念して「植本祭」を行い、本棚がよりいきいきとしてきました。



初エッセイ集 「まちライブラリー生活史〜ちとせ編〜」反響続々

まちライブラリー@ちとせ(北海道千歳市)で月2回開催している文章教室「書くまちライブラリー」の参加者の作品を中心にまとめた初めてのエッセイ集は、手に取った人から「誰もが色々な思いや人生を背負いながら、それでもいまを生き延びてきました」「益々日々の生活を大切にしたい」など、大きな反響がありました。冊子化第2弾を目指して、これからも「書く」活動を続けていきます!



ブックフェスタ10回目 全国でイベント237件

10回目の開催となった「まちライブラリー ブックフェスタ」は9月1日から2カ月間、全国各地を舞台に実施し、正式イベント登録は北海道から大分県まで237件に上りました。また、マイクロ・ライブラリーサミットでは、今年は書店減少のなか年々増えているシェア型書店の書店主さんが参加。独立系書店の活動は、まちライブラリーとつながる部分もあると感じつつ「個が主役になれる本の公共圏」をテーマに図書館、書店、まちライブラリーの立場を超えた活発な議論が交わされました。